

「 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、字数指定のある問題では、句読点は一字として数えます。

昨年①の三月、①人工知能の発展を Aまざまざと世界に知らしめる事件が起きた。コンピュータ囲碁ソフト「AlphaGo（アルファ碁）」と世界ランク当時二位の李・セドル九段が五番勝負を行ったのだが、ソフト側が四勝一敗で李九段を圧倒したのだ。内容的にも李九段が劣勢である局面が終始続き、ほとんどなす a術なく敗れてしまった。三年前には将棋の世界でもトッププロがソフトに敗れ、チェスの世界では二十年前に当時の世界チャンピオンであったカスパロフ氏がソフトの前に B膝を折ることとなった。そのような状況にありながら、囲碁の世界でコンピュータが人間を上回るのは、まだ数十年先といわれていた。（ 一 ） 囲碁はチェスなどよりも盤面が大きく、より複雑で bタサイな指し手が可能だと考えられていたからである。ところがコンピュータの進歩は想像以上のスピードで進んでおり、二（ 甲 ）が「昨年」に c訪れたのである。このような急激な進歩が我々の未来に ②大いなる脅威となることが予想されている。

具体的な例を挙げると、高速道路が分かりやすい。二十年前には高速道路の料金所ではどの場所にも五、六人の人が働いていた。（ 二 ） ETCの登場によって、今では各料金所で働くのは一人か二人である。これは全国の料金所から数千人の d雇用がなくなっていることを示している。高速道路以外にもスーパーマーケットのセルフレジ導入によってレジ打ちの仕事が不要となり、レストランではタブレット端末を使つての注文が可能になることで接客の仕事が eシヨウメツしていく。コンピュータの fハツタツによって様々な場所で我々人間は彼らに取って代わられることが予想されているのだ。

ではこのような状況の中で、我々はこれからどのような方向に ③活路を見いだせばよいのか。まず重要になるのが、コンピュータとうまく付き合えるかということである。いくら g飛躍的な発展を hトげたとはいえ、現段階ではそれをコントロールする人間が必要である。コンピュータは使いこなせる人間がいてこそ輝くのであり、それを受け入れない人間の前では、ただの鉄の塊でしかない。しかし、コンピュータが社会とこれだけ密接な関係にあるという事実を否定していくことは、今後の社会を生きる上で非常に困難なことである。それゆえに、間違はなくコンピュータに関するスキルを身に付け、うまく付き合える人間の iジユウウがある。

そして、それ以上に大切になるのが、④コミュニケーション能力だ。この能力が高いということは、自分の考えを相手に伝えるのが上手いということではない。相手の話を聞くのが上手く、会話を通じて相手のことを理解する能力が高いということだ。聞くという行為はコンピュータにとってはまだまだ苦手とする分野である。それにもまして、我が国の中高年に見られる「コンピュータ拒否症」とでも言うべき世代は人との直接のコミュニケーションを好む傾向が強い。そうした人たちの声を聞き、現代社会に届けられるという点が、コンピュータに勝る人の力かもしれない。先進国で高齢化が進んでいる現実を j鑑みると、まだまだ文字情報に頼らないコミュニケーションは必要になってくる。今後、コンピュータ分野はさらに複雑化していく。その進化についていける人間は、そう多くはないだろう。やはり、人とコミュニケーションが取れる人間になることこそが、このコンピュータ社会を生きていく ⑤最善の解であるように思えてくるのは、私だけだろうか。

（『人の進む道』本校教員による文章）

問一 二重傍線部 a・c・d・g・j の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 二重傍線部 b・e・f・h・i のカタカナを漢字に直しなさい。

問三 傍線部①「人工知能」の別の呼び方をアルファベット二字で答えなさい。

問四 空欄（ 一 ）（ 二 ）にあてはまる言葉として適切なものを次のア～エよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ たとえば エ なぜなら

問五 波線部 A・B の語句と同じ意味の言葉を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

A まざまざ ア しぶしぶ イ ふつふつ ウ ありあり エ じりじり

B 膝を折る ア 遠慮 イ 屈服 ウ 拝見 エ 付随

問六 空欄（ 甲 ）にあてはまる言葉を本文中より四字で抜き出しなさい。

問七 傍線部②「大いなる脅威」とはどのようなことか。その内容として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア コンピュータに仕事を奪われること。 イ 囲碁や将棋で人間が勝てなくなることを。

ウ コンピュータへの抵抗感が強まること。 エ コンピュータが予期せぬ行動を起こすこと。

問八 傍線部③について、本文が示す我々がとるべき「活路」として適切なものを次のア～クより二つ選び、記号で答えなさい。

ア コンピュータ研究をより一層発展させて、人を必要としないまで高めていく。

イ 人とコンピュータの関係を直直し、受け入れない人の態度を更生していく。

- ウ 現代の社会におけるコンピュータの意義を理解し、効率的に活用していく。
- エ コンピュータの持つ危険性を理解し、不利益を避けるため使用をひかえる。
- オ 自分の意思を明確に持ち、コンピュータを苦手とする人に正しい生き方を教える。
- カ 相手の意思を的確に察し、コンピュータを苦手とする人の正しい情報を伝達する。
- キ 互いの意思を的確に合わせ、コンピュータを苦手とする人に正しいスキルを伝える。
- ク 社会の意思を明確に理解し、コンピュータを苦手とする人の正しい道しるべとなる。
- 問九 傍線部④「コミュニケーション能力」に優れた人の特徴を述べた一文の最初の五字を抜き出さない。
- 問十 傍線部⑤について、筆者は「最善の解」をどのように考えているか。「会話」「理解」の二語を必ず用いて、三十字以内で答えなさい。

□ 次の文章は『伊勢物語』からの出典である。これはある人の娘が亡くなる際の様子を描いた文章である。これを読んで、あと問いに答えなさい。

むかし、男ありけり。<sup>※1</sup>人のむすめのかしづく、いかでこの男にもいはずと<sup>A</sup>思ひけり。うち出でむことかたくやありけむ、<sup>※2</sup>も病みになりて、死ぬべき時に、「かくこそ思ひしか」といひけるを、親ききつけて、泣く泣く<sup>B</sup>告げたりければ、まどひ<sup>三</sup>来たりけれど死にければ、<sup>※3</sup>つれづれとこもり居りけり。時は<sup>四</sup>水無月の<sup>五</sup>つごもり、いと暑き<sup>B</sup>ころほひに、宵は<sup>※4</sup>遊び<sup>C</sup>をりて、夜ふけて、やや涼しき風吹きけり。蛸高く飛びあがる。この男、見臥せりて、

ゆく( ) D ( 雲のうへまでいぬべくは秋風ふくと<sup>※5</sup>雁につげこせ

<sup>※6</sup>暮れがたき夏の日ぐらしながむればそのこととなくものぞ悲しき

注<sup>※1</sup>人のむすめのかしづく…ある人の娘で、大事に育てていた娘が

<sup>※2</sup>も病みになりて…病気になる

<sup>※3</sup>つれづれとこもり居りけり…さびしく引きこもってしまった

<sup>※4</sup>遊び…「遊び」は管絃の音楽のこと

<sup>※5</sup>雁につげこせ…「雁に告げてくれ。」雁は、肉体から遊離した靈魂を運ぶ鳥とされていた

<sup>※6</sup>暮れがたき…なかなか暮れない夏の一日中、しみじみとも思いにふけっているとなんとという「となしにもの悲しくなるのだ

問一 二重傍線部AとCの語句を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 傍線部「かくこそ思ひしか」とあるが具体的に何を指すか。適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男に自分の命が長くないことを伝えること。

イ 男に好意を持っていることを伝えたいということ。

ウ 男に和歌の返事をする事が出来ず心残りなこと。

エ 男と蛸と一緒にいることが出来なくなったこと。

問三 傍線部□・△の動作の主体として適切なものを次のア～エよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男 イ 人のむすめ ウ 親 エ 作者

問四 傍線部△「水無月」は現在の何月か。漢数字で答えなさい。

問五 傍線部△「つごもり」とあるが、その意味として適切なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 初旬 イ 上旬 ウ 中旬 エ 下旬

問六 空欄Dにあてはまる言葉を本文中から抜き出さない。

問七 伊勢物語は平安時代に成立した作品である。平安時代に書かれた作品を次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア 平家物語 イ 奥の細道 ウ 源氏物語 エ 徒然草

□ 次のことわざ・慣用句・故事成語・四字熟語の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の空欄の中に漢字一字を補い、ことわざ・慣用句を完成させなさい。ただし空欄には体に関する語が入る。

① 鬼の【 】にも涙 (日ごろ冷酷な人間でも、時には感動を表す)

② 【 】の荷が下りる (重い責任や負担から解放され、楽になる)

③ 良薬は【 】に苦し (欠点を指摘される助言は素直に聞きづらい)

④ 【 】を上げる (努力を重ね、自分自身の技術を進歩させる)

⑤ 【 】が重い (行動にうつすまでに時間がかかるようす)

問二 次の①～⑤の言葉と同じ意味を持つものを次のア～クよりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 澄んだ心 ② 世間知らず ③ 用心深い ④ 逆転 ⑤ 思わぬ失敗

ア 起死回生 イ 井の中の蛙 ウ 明鏡止水 エ 千里の道も一歩から

オ 猿も木から落ちる カ 四面楚歌 キ 犬猿の仲 ク 石橋をたたいて渡る



赤字…2点

黒字…3点

青字…5点

目		ロ							一																	
二	一	七	六	五	四	三	二	一	十		九	八	七	六	五	四	三	二		一						
①	①	ウ	蝨	エ	六月	ロ	イ	A	理	会	相	ウ	ア	数	A	一	A	h	b	g	a					
ウ	目					おもい		解	話	手	十			ウ	エ	I		遂	多彩	ひやく	すべ					
②	②							ウ	で	の	の											年	先	き	中	話
イ	肩							る	で	を																
③	③	ア	ころおい	B	人	相	カ	B	ロ	i	e	j	c													
ク	口			間	手	イ		イ	需要	消滅	かんが	おとず														
④	④			に	の																					
⑤	⑤	ア	おり	C	こ	よ	カ	イ	イ	需要	消滅	かんが	おとず													
ア	腕			と	く	f								d												
⑤	⑤			。	聞	発達								こよう												
オ	腰	き	、																							